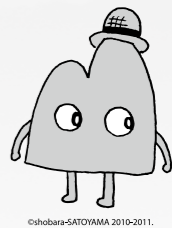


いよいよ開幕!!

庄原さとやま博



2010.10.3開幕 → 2011.11.30

商工観光課 ☎0824-73-1177

10月3日(日)の開幕まで残り一カ月を切り、待ちに待った「庄原さとやま博」がいよいよスタートします。改めてその意義や目的を再確認しながら、開催期間約1年という長いまち博の成功に向け、皆さん一緒に盛り上げていきましょう。

「さい」発見!

「さい」は「再・才・彩・幸・財」の5つを表しています。新たにパビリオンをつくって実施するのではなく、それぞれの「さい」を地域ごとに「発見」し、その魅力を市民の皆さんが活用することで、地域を訪れる観光客との交流が生まれ、感動を共有できる「まち博」として開催します。

市民の皆さんが主役です

庄原さとやま博は、市民の皆さんの協力・参加が必要不可欠です。皆さんの成功体験が増え、それを達成した満足感が得られたとき、新たな魅力として広く発信することにつながります。

幸せを感じる まちづくりを目指す

この博覧会をきっかけに「見る」「食べる」「学ぶ」「買う」「泊まる」などのサービスが地域に根付き、市民の皆さんが少しでも収入を得ることができるよう観光が定着することを目指します。また、それぞれの地域の観光資源を結び、庄原市全体として観光を産業化する仕組みをつくり、庄原市のイメージアップと観光関連産業の活性化につなげるとともに、住む人はもちろん訪れる人にとっても幸せを感じるまちづくりを目指します。

さとやま博のオープニングを飾る イベントを少し紹介します。

庄原さとやま博 オープニングイベント

●ステージイベント

とき 10月3日(日)10時30分～

●オープニングセレモニー

とき 10月3日(日)11時～

庄原の食が大集合!

●庄原フードフェスティバル

とき 10月2日(土)10時30分～3日(日)

16時

ところ 国営備北丘陵公園

開幕記念イベント

庄原市比和町にゆかりのある、岡本太郎と宮本常一を取り上げた写真展とシンポジウムを開催します。

●「写真が語るさとやま」写真展

とき 10月2日(土)～11月5日(金)

ところ 国営備北丘陵公園エンターテインメントセンター国兼

※入場料はいりませんが、国営備北丘陵公園の入園料が必要です。

●シンポジウム

とき 10月17日(日)13時～

ところ 庄原市ふれあいセンター

定員 250人

内容

◎わがやから再発見(報告)
コメンテーター/山田知子(比治山大学現代化学部准教授)

◎基調講演

講師/赤坂憲雄(福島県立博物館館長・東北芸術工科大学東北文化研究センター所長)

演題/岡本太郎と宮本常一

◎パネルディスカッション
演題/写真が語るさとやま

パネリスト/平嶋彰彦(写真家)、中村慎吾(庄原市立比和自然科学博物館館長・農学博士)・佐々木晶子(広島大学総合科学部生物圏科学研究科助教)・金山一宏(写真家)

コーディネーター/佐田尾信作(中国新聞社文化部長)

問い合わせ 庄原市観光キャンペーン実行委員会事務局
☎0824-75-0173

さとやま博をチャンスとにらんだ 活動が広がっています。

農家が儲ける観光を 創りたい

高野町「あつぎ会」

庄原さとやま博に参加しようと、高野町の農業青年グループ「あつぎ会」が8月6日、下高公民館で、実行委員会事務局を招き、意見交換会を開きました。

この日は、リンゴやトマト、ホウレンソウ、コメなどを栽培する会員15人が参加。①庄原フードフェスタ、②体験メニュー、③さとバスツアーの3つの部会に分かれ、農業体験などのメニュー化について考えました。

参加者は「搾りたての牛乳でバターづくり体験はどうか?」「もぎたての果実や野菜のおいしさを味わうツアーをしよう」「トラクターなど農機具の試乗体験もおもしろい」「かまくらやスノーラントンづくりも喜ばれる」...などと、さまざまなアイデアを出しながら、喜ばれる仕掛けや、儲ける仕組みについて知恵を絞りました。



アイデアを出し合う会員

嵯満重毅会長は「庄原さとやま博で、農家が儲ける観光を創ることが目標。今日出たアイデアをカタチにして、高野町の魅力を広く発信していきたい」と話していました。

今後、実行委員会事務局でアイデアをまとめ、庄原さとやま博の実施に向け、準備が進められます。



写真:NPO法人アースランド フォト ネットワーク